

取材ノートから 年末回顧

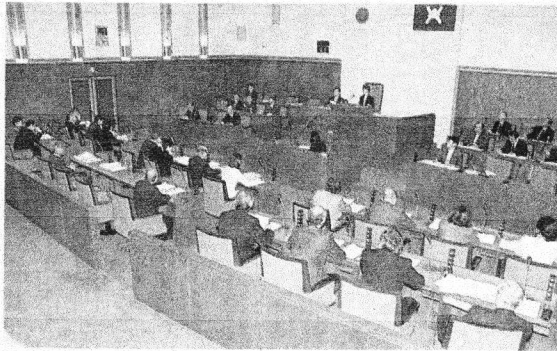
生駒市議会

議員の声が聞きたい

何度、同じことを繰り返すの
らう。議員定数と報酬の削減案を
審議した生駒市議会のことだ。

市民団体「見張り番・生駒」の
阪口保代表幹事らが出した直接請
求は、定数を24から18に、報酬を
30%削減する案で、削減幅はやや
大きかった。だから議会で否決
は想定内のことだったが、問題は
その審議内容だ。

阪口さんら3人は、削減案を審
議した市議会の企画総務委員会に
参考人として出席した。「一気に
減らすと混乱するとは思わない
か」「委員会の運営をどうするの
か」。議会側から次々、厳しい質
問が浴びせられた。



阪口さんは「自分たちの理想と
する定数やその理由を全く表明せ
ず、私を追及してばかり。まるで
証人喚問だった」と振り返る。

こうした議員への不満は、11月
下旬から小学校区ごとに12回開か
れた市民との意見交換会でも見ら
れた。「議員個人の考えが聞きた
い」という市民に対し、議員らは
「議会の報告会だから、議員個人
の考えは言わない」と繰り返し
た。「こんな、意見交換会じゃ
ない」と市民が激高する場面もあ
った。

思い起こせば、市立病院建設計
画をめぐる審議もこんな感じだっ
た。

直接請求を否決し、議員定数の現
状維持を決めた生駒市議会

た。データを持ち寄っての本格的
な議論とはほど遠く、「小児科医
が少な過ぎる」「指定管理者候補
の徳洲会は信用できない」といっ
た無理難題としか思えない指摘が
繰り返された。「小児科医が少な
いようなので、私が連れてきま
す」とか、「徳洲会よりも好条件
の引き受け手を見つけた」といっ
た建設的な提案は一度として聞か
れなかった。

元議長がらみの汚職事件の影響
で、市議会は欠員1での運営が続
いている。「なぜ23人では運営で
きないのか」。そんな素朴な疑問
が市民から聞こえてくる。定数24
維持の合理的な理由は何か。
「議会」という集団から一歩踏み
出した議員個々の声が聞きたい。

(東裕二)